

# 緩歩

かんぽ

— 第5号 —

【題字】

洞慶院 丹羽鐵山 老師

曹洞宗

静岡県第一宗務所青年会



第9期会長  
山田 哲哉

春光うらかなよい季節となりました。皆さまにはご健勝にてお過ごしのことと存じます。

第一曹青会長の任を賜り一年間で様々な活動に取り組んで参りましたが、その間に管内ご寺院様並びに当会会員諸兄の皆さまより、深いご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。力不足な身でありながら、お陰をもちましてこうして無事に任期二年目を迎えられることを、ここに紙面をお借りいたしまして衷心よりお礼申し上げます。

当会は、会則第一章第二条『目的』にて「本会は宗門の精神を基にし、宗教者たる自覚をもつて研鑽に励み、教化導に奉仕し、会員相互の親睦を図る事を目的とする」と定めております。その会の目的に沿いましてそれぞれの会員が、日々檀務を始めとした布教化活動に多忙な中で、様々な工夫を凝らして共に研鑽を重ね親睦を深めて参りました。

昨年度を振り返りますと、ボランティア委員会では聴覚障害者についての研修会「聞こえないということ」を開催し、障害についての知識や理解を深めていくことの必要性を再認識させられました。併せて各地区において救急救命(AED)講習も行い、地域や日々の生活の中に起こりえる救急救命の可能性について研修を受け、実践によりその担い手としての技能と意識を高める事が出来ま

した。また、教化研修委員会では、靖国神社とその資料館『遊就館』での学習により、多様な角度から私たちが向き合うべき「宗教・平和・人権」についての課題に直面させられる研修会を開催いたしました。両委員会により、今年度も更なる充実した研修会を開催出来るよう努力して参ります。そして広報委員会が、これらの研修会や托鉢等を中心に青年会関連行事の活動報告を、当会広報誌『緩歩』やホームページ『web緩歩』の充実化を進めながら取り組んで参りました。皆さまへのご報告を通して、会の活動について様々な



ご意見・ご評価を頂くことが、私たち青年僧侶が歩んで行くべき道を探り、確かめて行く上で欠かせないものになると考えております。これら委員会による活動の充実こそが、各会員にとりまして当会が有意義なものになる道であると考えます。今後、会の運営に対して鋭意邁進して行くように心掛けて参ります。

以上の各委員会活動に加え、他にも第一宗務所が掲げておられます布教化方針「同事行の実践」を踏まえまして、当会で独自に作成いたしました点字經典の宣伝頒布にも取り組んで参りました。多くのご寺院様のご理解・ご協力を頂き、改めて感謝申し上げます。このような研修と関連した事業展開は、これからの青年会が目指すべき方向性を示す一つの試金石たり得る物であると考えます。会員の活動がこのような繋がりを見せて展開できるよう、皆さまと共に言葉を交わし、互いの理解を深めて行く中で会の活動を大切にしていきたいと考えております。

どうぞ今年度も皆さまのお知恵とお力をお貸し頂けますようお願い申し上げます。ご挨拶にかえさせて頂きます。

# 二十一年度 活動報告

## 定例総会

平成二十一年四月六日「静岡グランドホテル中島屋」において、第十七回定例総会が行われました。

平成二十年度の事業報告、会計報告・監査報告がなされ、高橋俊行前会長から、山田哲哉新会長に引き継がれました。新人事が発表された後、平成二十一年度事業計画、会計予算案などについて討議され、全て承認されました。各委員会の活動予定についても全て承認されました。九人の会員が卒会され、三人の新入会員がありました。本会製作の「曹洞宗点字経典」完成の報告が行われました。

## 花まつり

平成二十一年四月八日、花まつり（お釈迦さまのお誕生日）をお祝いし、また世界の平和を祈念して、花配りをおこないました。

東部地区では、JR沼津駅前にお



いて午後五時よりOBも含む会員二十名にて花配り（生花）を実施しました。

中部地区では、JR静岡駅北口地下通路において、午後五時より会員三十名にて花配り（花の種と植木鉢のセット）をおこないました。

西部地区では、JR藤枝駅前において午後四時より、またJR焼津駅前において午後四時三十分より実施しました。花配り（花の種と植木鉢

のセット）をおこない、花御堂を安置し誕生仏に甘茶をかけていただき、また甘茶をふるまいました。

## 平和祈念托鉢

平成二十一年十一月十一日（世界平和記念日）、静岡駅前北口地下広場にて、世界の平和を祈念して托鉢を行いました。

参加者は僧侶（青年会会員）四十名。天候が嵐となつてしまったため、やむなく集合場所の瑞光寺様から静岡駅まで車で移動し、駅前での広宣活動・托鉢となりました。本年より広宣のためティッシュを作成し配布いたしました。

皆様からいただきました浄財一万七千六百十九円は、社団法人シャンティ国際ボランティア会に寄付いたしました。ご協力、まことにありがとうございました。

### 【会員のコメント】

今回、師寮寺に戻ってから初めて托鉢に参加させて頂きました。天候が雨という事もあって、当初の不安より更に不安になりました。場所も地下だったので足を止めてくれる人がどれくらいいるのだろうか、仮に

年配の人は興味を持ってくれるのかもしれないが、若い世代の人は素通りしてしまうのではないかとといった不安がありました。しかし実際に托鉢してみると、年配の人だけでなく若い人も思った以上に関心を持って頂けた事がとても嬉しかったです。これからも托鉢に限らず色々な行事に参加していきたいと思えます。

（K・A）

あいにくの強い雨で移動にも時間がかかり、時間が短くなってしまいました。残念でした。限られた時間の中で、少しでも考えるきっかけになれたのなら幸いに思います。

（W・I）



## 第三十三回 東海管区 曹洞宗青年会大会

平成二十一年十一月十五日、「グランドホテル浜松」(浜松市)において、東海管区曹洞宗青年会大会が静岡県第四宗務所青年会の主管において開催されました。大会のテーマに「あの頃に還(かえ)ろう」を掲げ、東海管区から多くの青年会員が参加し盛會のもとそれぞれ研鑽・親睦を図りました。二日目の親睦会では、カート大会が開催され、当青年会が見事優勝しました。

### 【会員のコメント】

島田洋七氏の講演会はずがのネームバリューで会場は一般の方々でほぼ満席でした。その七割が中高年の方々でしたが、その年齢層に適した内容で、皆さんはその感心させられる内容に何度も頷いておられました。物質的に豊かな時代にあって忘れられた、心豊かに生きる確かな知恵を思い出させるような島田氏の講演でした。

(S・S)

## ボランティア研修

平成二十一年十二月三日午前十時より静岡県総合社会福祉会館(静岡市駿府町)に於いて静岡県聴覚障害者協会事務局長、山本與四郎様を講師として「聞こえないということ」をテーマに、聴覚障害や手話についての基礎知識を学ぶ講習会が開催されました。講師ご自身も、ろうあ者のため、手話通訳士の飯島本子様、阿部薫様の同時通訳なしでは何も理解することが出来ない無力さを痛感しました。障害者に対する私達の心の壁を取り除いてくれるようなユニモア溢れるお話をいただきました。



最後に前田智子事務局次長より、私達健全者の方から、障害者に対して傾聴し、心のコンクリートの壁を壊していく努力が必要であると言われ、今後も社会人として一青年僧として出来る事は、私達から変わらなければならぬという事を考えさせられる良き一日でした。

## 歳末助け合い托鉢

平成二十一年十二月、県内各地で歳末助け合い托鉢が行われました。静岡市では、十二月三日に静岡駅地下道で行いました。いただきました浄財四万八千三百三十円は、「SBS愛の都市訪問」に寄付しました。

島田市では十二月七日に島田駅周辺で行いました。十二名が島田市の林入寺様よりスタートしました。一万一千六百四十一円の浄財をいただき、島田市社会福祉協議会を通して歳末助け合い募金に寄付しました。

焼津市でも十二月七日に焼津駅周辺で行いました。八名が焼津駅よりスタートしました。一万四千六百七十二円の浄財をいただき、焼津市社会福祉協議会を通して歳末助け合い募金に寄付しました。



沼津市では、十二月二十四日に沼津駅周辺にて行いました。七万七千二十九円の浄財をいただき、沼津市社会福祉協議会を通して歳末助け合い募金に寄付しました。ご協力、ありがとうございました。

## 靖国神社研修

平成二十一年六月五日、靖国神社を参拝し、資料館『遊就館』を見学しました。

## 安居志願者研修

本年度、僧堂に安居を希望している宗侶たちが、応量器の使い方や、お袈裟のつけ方などを学ぶ研修が行われました。



【取材協力】富士市 金華堂様

【文】青野貴芳

### 最上段

「ここにはご本尊様を安置します。曹洞宗では、「一仏両祖」をおまつりする「道元禅師、瑩山禅師」をおまつりすることになっておりますので、檀信徒の皆様も、それに倣っていただければと思います。ご本尊様のいらっしゃる仏壇、お位牌の影にご本尊様が隠れている仏壇、お位牌が中心に据えられていてご本尊様が脇に置かれている仏壇など、しばしば目にしますが、これは理に合わないものです。故人は仏弟子となられたわけですから、お師匠様と一緒にまつりしましょう。そして、弟子は師匠より下に位置するのが道理というものです。従って、原則としてこの段にはお位牌を置けません。

また、仏壇は本来、仏舎といつて、仏像をおまつりするためのものでした（諸説あり）。仏壇は、仏舎にご先祖様をおまつりする機能を付加したものだといえるでしょう。なので、「仏壇」と称する以上、ご本尊様が安置されていしがるべきものだと思います。その他、ご縁のある仏様・菩薩様・神様はこの段の脇におまつりするとよいでしょう。

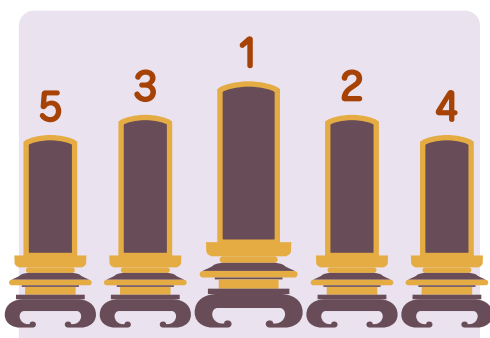
**お** 檀家様のお宅に伺っても、仏壇の様子は千差万別。仏壇はどうやってまつりするのがよいのか、今ひとつ知られていないように思えます。しかし、色々調べてみると、「どうも」「これこそが正しい」というものはないようです。何だか頼りないなあと思われるかもしれませんが、まあ、儀式的なことでは、概してそんなものです。いい言葉があるではありませんか。「理屈と膏薬はどいづれも世に付く」（筆者の座右の銘でもあります。うーん、至言だ）儀式的なことには、いちおうの標準はあるものの、それにこだわらなくてもいいです。形は心を表現するためのものなので、納得のいく理由があれば変わってもいいと思えます。でも、やはり、道理としてこうあるべきではないかと思ってしまうのはありますので、あくまで一つの意見として仏壇のおまつりの仕方を提案してみます。

### 二段目

また、水（正式には闕伽あか）も、お寺の須弥壇を参考にすると、この段に置くことよいと思います。水を供養する意味は複数あり、まとめると、①飲用、②つがい用、③沐浴用、④洗手洗足用、⑤仏智の象徴などのようです。

### 一段目

ここにはお位牌をおまつりします。先祖代々牌や繰り出し位牌、または過去帳があれば、それを中央にして図のよつな順におまつりします。向かって中央右側に古いお位牌を置き（古いものを上位と考えます）、次位のお位牌は中央左側に、次々位のお位牌は右外に、次々々位のお位牌は左外にという具合に並べるとよいでしょう。



中央に先祖代々牌や過去帳、以降は中央から外側に向かって右・左の順に並べます。

### お経

『般若心経』『修証義』『観音経』などをよみます。

### 回向

回向は、読経の功德を他に差し向けるための文章です。読経の功德は、そのまま自分のものになるのですが、必ず回向をします。やはり、利他行は仏道の要だといえましょう。「一番短い回向は、「願わくは、この功德をもって普く一切に及ぼし、我らと衆生と皆ともに仏道を成ぜんことを」です。短いけれども、簡にして要を得た回向文です。特定の誰かに回向したいときなどの回向文は、菩提寺のご住職にお尋ねください。

### 注意点

- ① お茶とお仏飯は、食事の時間になったらお供えし、食事が終わったら下げるようにしてください。水は、朝替えたら一日中そのままにしておき、翌朝新しいものになります。
- ② 蠟燭の火でお線香を点けてはいけません。これは「仏灯を盗む」と言われる行為です。お線香には、点火用の火を使いましょう。
- ③ 警子は、お仏壇にお参りした際に、ついでに鳴らすものではなく、読経のときに鳴ります。
- ④ お線香は直接床に置くべきではないので、経机（または書見台）を用意しましょう。
- ⑤ 不幸があったとき、仏壇の扉を開ける慣習のある地域があります。これは、おそろしく「死のケガレ」に基づいて考え方だと思われ、仏教的には相応しくない慣習なので、踏襲する必要はありません。
- ⑥ 以上述べたことは、あくまでも一つのモデルであって、絶対のものではありません。

**その他**  
警子（いわゆる「鈴」）、経机は、お求めいただく方がよいでしょう。他（）、必需品ではありませんが、金蓮、吊灯笼、華蔓、櫻玲、飾り香炉などの荘厳具があります。



この写真は、私どもの提案する仏壇のおまつりの仕方です。このように、仏壇の内部は、底面部分（前卓）を含めて四段が一般的なので、四段の仏壇を想定して考えました。

# 梅花観音霊場めぐり

【東部③〜中部①】

今回は富士川から清水周辺にかけての梅花観音霊場をご紹介します。

第七十六番

曹溪山

## 清源院

みなもとを  
たずねてみれば  
からんだやま  
ながれもきよき  
だいさつのにけ



富士市  
岩淵

第五十六番

鶴雄山

## 少林寺

遠つ国を  
渡り来たりて  
少林寺  
鶴がみ法を  
仰ぎはげまん



清水区  
八木間町

第五十四番

少室山

## 見性寺

かの岸を  
近くに仰ぐ  
少室山  
みのり賜る  
縁うれしも



清水区  
八木間町

第七十七番

光福山

## 新豊院

つきさえて  
しんぼういんの  
みやまのに  
よもよりきこゆ  
ぼさつのみこえ



富士市  
岩淵

第五十三番

龍河山

## 宗徳院

ふだらくや  
龍河の山に  
風なごみ  
興津うらわの  
波の寂けき



清水区  
興津本町

第七十八番

浄巖山

## 宗清寺

富士川の  
清き瀬に立つ  
宗清寺  
仏のめぐみ  
四方にあまねし



富士市  
中之郷

第五十二番

瑠璃山

## 龍興寺

駿河なる  
波の躍りて  
龍興寺  
松の緑に  
み法溢るる



清水区  
興津中町

第七十九番

安谷山

## 貞心寺

白梅の  
清き香りの  
観世音  
み恵み深き  
安谷の山



清水区  
蒲原中

第五十五番

熊耳山

## 西来寺

和やかに  
熊耳の山の  
夕映ゆる  
これぞ大悲の  
高き功德と



清水区  
八木間町

第五十一番

嶺水山

## 眞如寺

み名を呼ぶ  
妙なる調べ  
澄みゆけば  
眞如の月の  
高く上れり



清水区  
袖師町

# 委員会活動の報告

## 教化研修委員会



委員長  
温湯康二

平成二十一年度教化研修委員会活動報告をさせていただきます。

委員会の今期活動テーマは、「人権・宗教・平和」であります。そのテーマに沿って行った研修として、六月五日に靖国神社本殿を参拝し、資料館『遊就館』を見学致しました。三十四名の参加者は、戦没者の遺品や歴史を目の当たりにしその状況を我が身に感じ、平和への思いを更に考える機会に繋がったと思われれます。

また、宗教問題として十年以上前の作品ですがドキュメンタリー映画『A』（森達也監督作品）を視聴覚研修の題材に選び、各地区にて開催場所と日時を設定して行いました。

平成二十二年度の活動も会員各位の協力をお願い申し上げます。

## ボランティア委員会



委員長  
吉岡博瑞

青年会会員の皆様には、平素よりボランティア委員の活動にご協力を頂き、厚く御礼を申し上げます。

昨年十二月に、社会福祉におけるより一層の意識向上を目的とした「手話講習会」、本年二月には各地区にて「AED講習」を受講させていただきました。どちらも大勢の会員の皆様に積極的に参加いただいた事で、それぞれの志の高さを感じる事ができました。

私たち青年僧にできる事は、まだまだ沢山あります。今期もボランティア委員一同がそれぞれの考えを出し「自未得度先度他の心」で、会員の皆様のスキルアップにつながるよう努力していきたいと思えます。

今後の活動にも、皆様のご協力とご参加をお願い申し上げます。

## 広報委員会



委員長  
平尾直毅

昨年度は、平成十四年に開設した、「曹洞宗静岡県第一宗務所青年会ホームページ」の名称を、広報誌『緩歩』（本誌）の名を受ける形で、『web緩歩』と名付けました。

「緩歩」とは、歩く禅の事です。しかし、ただ漫然と「歩く」わけではありません。道元禅師は、『辨道法』の中で「緩緩として歩し、閑静なるを妙となす。なお住立するが如く、運歩せざるに似たり」とお示しになりました。本誌『緩歩』も、『web緩歩』も、目立つような事をしたり、流行を追ったりすることなく、ゆっくりと確実に歩みを進めて参りたいと思えます。

さて、昨年度の『web緩歩』は、月に一回のペースで、「禅語」「禅と食事（精進料理のレシピ紹介）」「観光情報」を更新してきました。内容も充実してきました。是非ご覧ください。

# 賛助御礼

- ・ 3 | 61 長光寺様
- ・ 3 | 77 龍泉院様
- ・ 4 | 109 玉泉寺様
- ・ 5 | 124 宗徳院様
- ・ 5 | 138 龍興寺様
- ・ 6 | 185 三明寺様
- ・ 7 | 189 永明寺様
- ・ 7 | 199 伝心寺様
- ・ 8 | 391 十輪寺様
- ・ 8 | 393 弘徳院様
- ・ 8 | 401 旭伝院様
- ・ 12 | 528 盤石寺様
- ・ 12 | 530 則心寺様
- ・ 13 | 552 貞善院様
- ・ 14 | 19 光用院様
- ・ 15 | 90 光鏡院様
- ・ 15 | 95 久應院様
- ・ 15 | 100 東光寺様

(平成二十二年三月一日現在・順不同)  
 青年会の活動に多大なるご支援  
 ありがとうございます。

青年会一同九拝

## 卒会者紹介

- ・ 十教区 清林寺 武藤啓央師
  - ・ 十二教区 喜徳庵 梶田瑛浩師
  - ・ 五教区 龍雲院 大塚芳裕師
  - ・ 十二教区 大霊寺 近藤章正師
  - ・ 七教区 延命寺 高橋俊行師
  - ・ 一教区 瑞光寺 柴田尚道師
  - ・ 五教区 玉泉寺 倉光信弘師
  - ・ 六教区 藤泉院 服部学而師
- 長い間お疲れ様でした。これから  
 もご指導よろしくお願い致します。

## 新入会員紹介

- ・ 一教区 瑞龍寺 浅井康博師
  - ・ 五教区 一乗寺 丹羽崇元師
  - ・ 六教区 興禅寺 松本揚裕師
  - ・ 六教区 桃源院 山本俊介師
  - ・ 九教区 耕春院 渡辺雄介師
  - ・ 十教区 観音寺 小金山宗純師
  - ・ 十一教区 龍江院 山下慈昭師
  - ・ 十二教区 高德寺 畑中孝道師
- よろしく願います。  
 これからの活躍を期待します。

# 曹洞宗 点字經典

収益の一部を「社会福祉  
 法人日本点字図書館」に  
 寄付させていただきます。

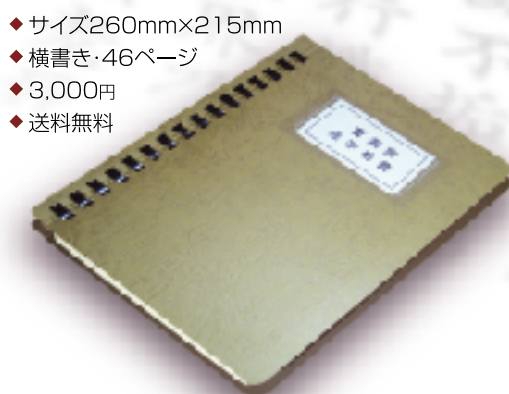
曹洞宗静岡県第一宗務所青年会では、静岡県第一宗務所が掲げている布教教化方針「同事行（利他行）」の実践を受け、視覚障害の方にもお経を読んでもいただけるよう、点字經典を作成いたしました。

### 主な収録内容

- ◆ 般若心経
- ◆ 修証義
- ◆ 普門品偈
- ◆ その他偈文

### 特長

- 強い力で押ししてもつづれにくい点字加工。
- 弱視の方や、お年寄り、お子さまでも読みやすい、大きく太い文字表記。読みがな付き。



- ◆ サイズ260mm×215mm
- ◆ 横書き・46ページ
- ◆ 3,000円
- ◆ 送料無料

お申し込み・お問い合わせ  
 静岡県 第一宗務所 青年会  
 事務局（新豊院内）  
**☎0545-81-0246**

### 編集集後記

おかげさまでもちまして、緩歩第五号を発行することができました。前号までは、御寺院様に向けて発行してきましたが、今号より、檀信徒の皆様にもお配りできるよう紙面を工夫し、発行部数を増やしました。今後ともよろしく願います。

- 広報委員長 平尾直毅  
 編集委員 梶田瑛浩 青野貴芳

### 編集委員(つぎ)

- 中村雄介 浅井賢文  
 翠 智道 澤田俊憲  
 古川義典

発行	曹洞宗 静岡県第一宗務所青年会
事務局	富士市岩淵328 新豊院内
発行責任者	山田哲哉
編集	青年会広報委員会